

藤が丘まちづくり基本構想

－ 名古屋の東の玄関から 東の中心へ －

藤が丘まちづくり協議会

I まちづくり基本構想とは

1. まちづくり基本構想の位置づけ

- ①藤が丘を取り巻く環境が変化しています。
昭和40年代に藤が丘という現在のまちの形が完成して半世紀がたち、都市施設全般の老朽化が進んでいます。一方、近年、藤が丘内及びその東部ではマンション・住宅開発が盛んに行われるなど、藤が丘を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。
- ②多くの関係者が共通目標を持ち、連携してまちづくりを進めることが重要です。
環境の変化を良いきっかけととらえ、まちの課題を解決し、地域の個性を活かしたまちづくりを進めるためには、藤が丘にお住まいの人や商売を営んでいる人々に加えて、藤が丘に関わる企業・行政・大学などが、同じ目標に向かって協働し、進めていくことが重要です。
- ③まちの将来像や方向性を示すまちづくり基本構想を作成しました。
藤が丘の地域住民を中心に構成している「藤が丘まちづくり協議会」では、地区全世帯へのまちづくり意向調査を実施し、今後の藤が丘のまちづくりの方向性を検討してきました。これまでの検討内容を踏まえ、このたび、地域の考えるまちの将来像やまちづくりの方向性を盛り込んだ「藤が丘まちづくり基本構想」を作成しました。

2. 目標年次

30年後の2055年を目標年次とします。
(藤が丘のまちが誕生してから概ね80年が経過し、都市施設が更新時期を迎えるため)

3. 対象区域図

まちづくり基本構想の対象区域は藤が丘学区とします。



II 藤が丘の将来像と方向性

1. まちづくりの理念と方向性

藤が丘まちづくり構想は、実現すべき藤が丘の未来のまちづくりのありかたを定めるものです。その基本となる価値観が「まちづくり理念」であり、実現の道すじが「まちづくりの方向性」です。

まちづくりの理念

○Well-being（地域の生活の質）の向上と持続可能なまちづくり

Well-beingに込めた思いは、地域の「幸福」です。藤が丘まちづくり構想は、藤が丘に住み、あるいは藤が丘に関わる人々が、社会的、経済的、環境的に幸福になり、その状態を持続させていけるまちづくりを目指します。

まちづくりの方向性

○「名古屋の東の玄関」から「名古屋東部の中心」を目指す

名古屋市の東の端に形づくられた藤が丘は「名古屋の東の玄関」でしたが「愛・地球博」を契機とする東部開発によって、地域活力のポテンシャルが高まっています。この機運をとりこみ「名古屋東部の中心」となりうるまちづくりを目指します。

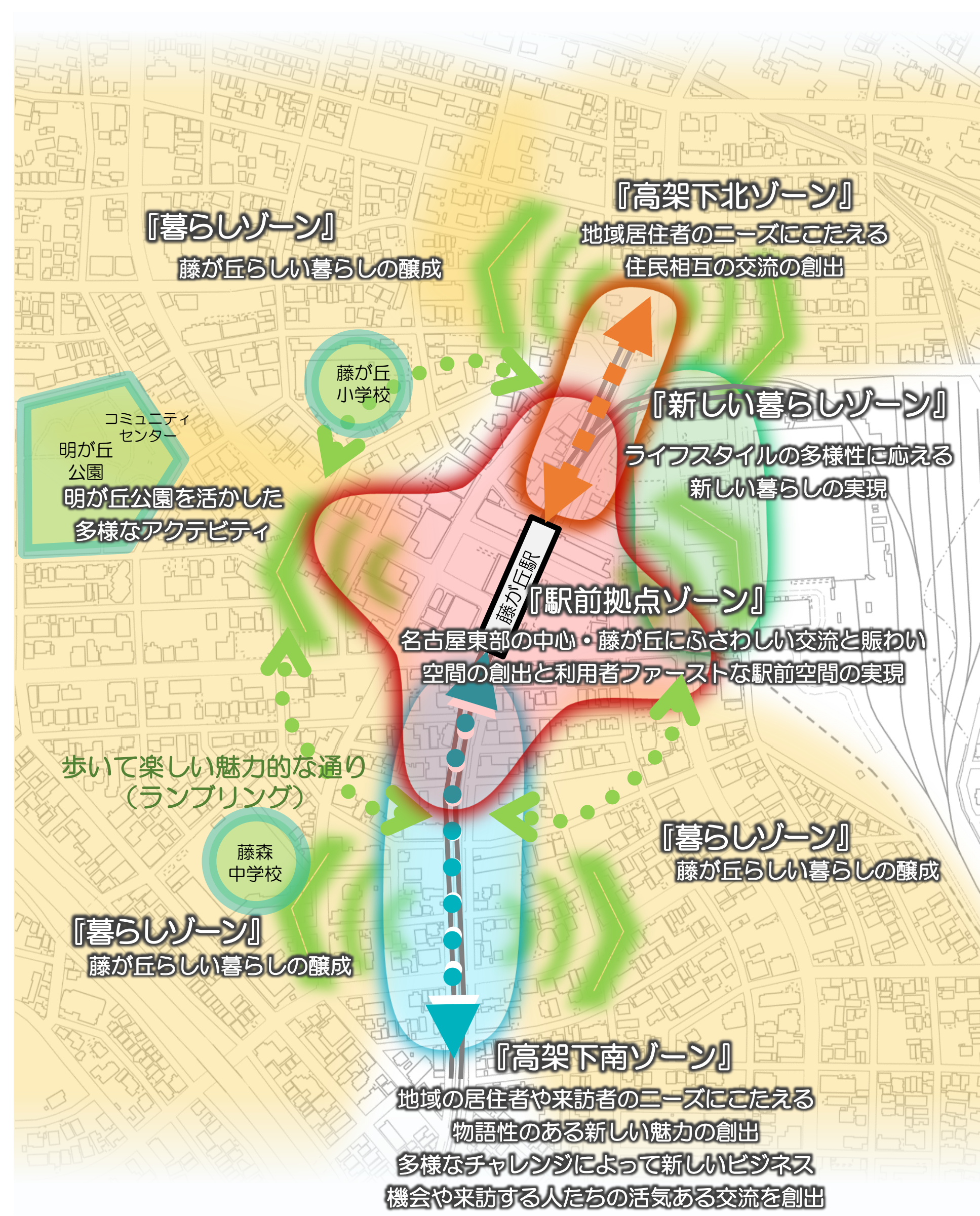
○日常的な生活循環が完結する地域生活圏の核としての藤が丘を目指す

藤が丘が、地区内やその周辺地区の人々の生活の中心として密度の濃い日々の生活循環の核として、地域生活の中心となることを目指します。

○人とコミュニティが中心のランプリング（そそろ歩き）タウンを目指す

住民と持続的に藤が丘に関わる人々を大切にすまちとして、人と人との関わり、コミュニティを大切に、かつ、そそろ歩きを楽しめる人間らしさを大切にすまちづくりを目指します。

III まちづくりの全体ビジョン



暮らし・交流

藤が丘駅周辺は、近年大規模マンション開発などの影響を受け、エリア内の人口が増加しているだけでなく、ジブリパークの開園を契機に広く地域外からの来街も増加しています。今後は、多様なライフスタイルのニーズに応える住環境の整備とともに、暮らしの魅力と交流の質を高めるまちづくりを目指します。

1 地域住民のまちづくりに期待する声

○治安が良く安心・安全に暮らせる住環境の形成

子育てしやすい環境や、夜間明るく子どもや高齢者も安全で安心できる街に期待する声がありました。

○老朽化した住宅（UR団地）の建替え

UR団地を中心とする駅周辺の老朽化した住環境のリニューアルを求める声がありました。

○気軽に集える場所・機会の創出

住民同士や高齢者同士の交流の場の形成、またジブリパークの全面開業を受けたインバウンド増加を活かしたまちづくりに期待する声がありました。

2 まちづくりの方向性

『交流から生まれる多彩で豊かな暮らしの実現』

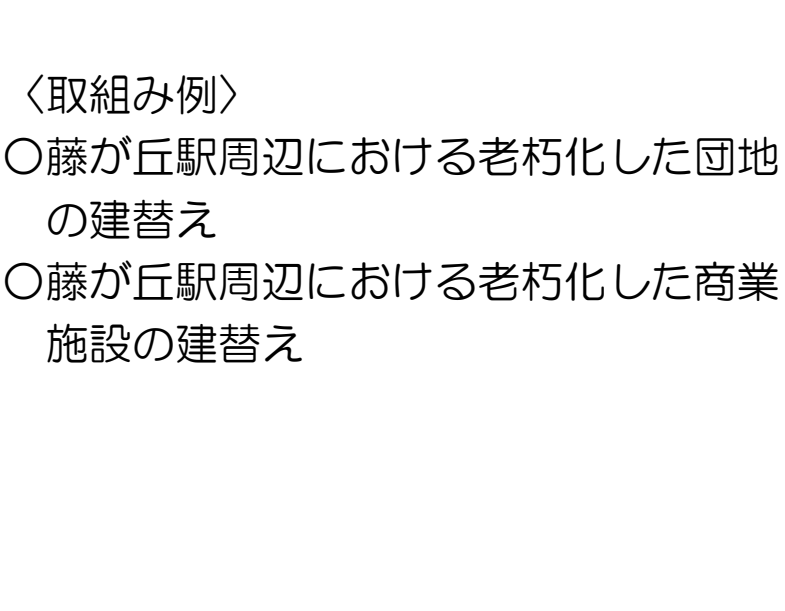


方針1 安全で安心できる暮らしの実現を目指します



- 〈取組み例〉
- 安心して子育てできる居場所づくり
 - 夜間に安心して歩くことができる環境づくり
 - 災害時に避難できる場所づくり
 - 防災倉庫の整備
 - 防犯灯、防犯カメラの増設

方針2 多様なライフスタイルのニーズに応える新しい住環境の整備を目指します



- 〈取組み例〉
- 藤が丘駅周辺における老朽化した団地の建替え
 - 藤が丘駅周辺における老朽化した商業施設の建替え

方針3 多様な人の交流を育む仕組み・受け皿づくりを目指します



- 〈取組み例〉
- 多様な人が気軽に集えるスペースの整備
 - 藤が丘学区内の団体の情報を発信するためのHP（ホームページ）の立ち上げ
 - 近隣の市町村と様々な場で協働した場づくり

交通

藤が丘駅は、交通の結節点として、地下鉄で約5.2万人/日、リニモで約2.1万人/日の乗降客を誇っています。今後も定住人口や交流人口の増加を受けて駅利用者の増加が見込まれることから、駅利用者にとって快適で使いやすい広場を始めとする駅前空間づくりや歩行者中心のまちづくりを目指します。

1 地域住民のまちづくりに期待する声

○歩行者の安全性・快適性の向上

車両と歩行者の交差による混雑状況や、歩道に発生している段差の解消など、安全に歩行できる歩道空間の整備を求める声がありました。

○バス・タクシー乗り場の整備

市バス、名鉄バス、タクシー乗り場の分かりやすい配置を求める声がありました。

○バス待機所の整備

バス待機者によって歩道空間が占有されている状況の解消など、快適な歩行空間を確保するためにバスの待合いスペースの更新を求める声がありました。

2 まちづくりの方向性

『利用者ファーストの使いやすい駅前空間』



IV まちづくり基本構想の実現に向けて

1. 短期・中期・長期スケジュール及び短期・中期の具体的なアクションプラン

	短期 3～5年程度	中期 5～10年程度	長期 10年程度～
暮らし・交流	取組み方針の検討 要請・協議	運用開始	
	要請・協議	建替え方針の検討 建替えに向けた調整	建替え工事
交通	要請・協議	コミュニティ活動のための環境整備	運用開始
		整備方針の検討 整備に向けた調整	整備工事
商業・業務	方針の検討 例：高架下の施設整備	支援の仕組みづくり	運用開始
文化・教育	協議会・勉強会の開催 運用計画の検討		運用開始
環境・みどり	方針の検討 例：みどり豊かな空間の在り方 まち並みの在り方	ルール策定	ルールの運用開始
			イベントの開催

豊かな暮らしを育む取組み方針の検討

防犯防災対策や地域交流を育むための仕組みづくりなど、豊かな暮らしに必要な方針を検討します。

新しい住環境の建替え計画の策定

駅前にある老朽化した団地の建替え計画の策定及び建替えを関係者に要請し、各関係団体と協議します。

新しいコミュニティ環境の整備

高架下を活用したコミュニティ活動のための環境整備を関係者に要請し、各関係団体と協議します。

交通

要請・協議

整備方針の検討
整備に向けた調整

整備工事

利用者ファーストな駅前空間にするための整備方針の検討

利用者の使い勝手に配慮した駅前空間の整備方針の検討及び整備を関係者に要請し、各関係団体と協議します。

商業・業務

方針の検討
例：高架下の施設整備

支援の仕組みづくり

運用開始

個性豊かで魅力的な店舗などを支援する仕組みづくり

高架下の施設整備の方針を検討します。また、高架下や空き家を活用したチャレンジショップ導入の仕組みづくりを行います。

文化・教育

協議会・勉強会の開催
運用計画の検討

運用開始

まちを育てる地元組織づくり

地元住民、大学、自治体、地元事業者、企業などが相互に連携を図りながらエリアマネジメントを行う組織づくりを行います。

環境・みどり

方針の検討
例：みどり豊かな空間の在り方
まち並みの在り方

ルール策定

ルールの運用開始

イベントの開催

みどり豊かな空間の在り方、まち並みルールの検討

みどり豊かな空間の在り方や、藤が丘らしいまち並みのルールを検討します。

公園や広場の活用検討

明が丘公園や広場を活用した多様なイベントを実施します。

※その他が主体となるものについては、主体となる関係者と実施の有無を含めて調整したものでなく、当協議会が独自に想定したものです。

2. 長期のアクションプラン

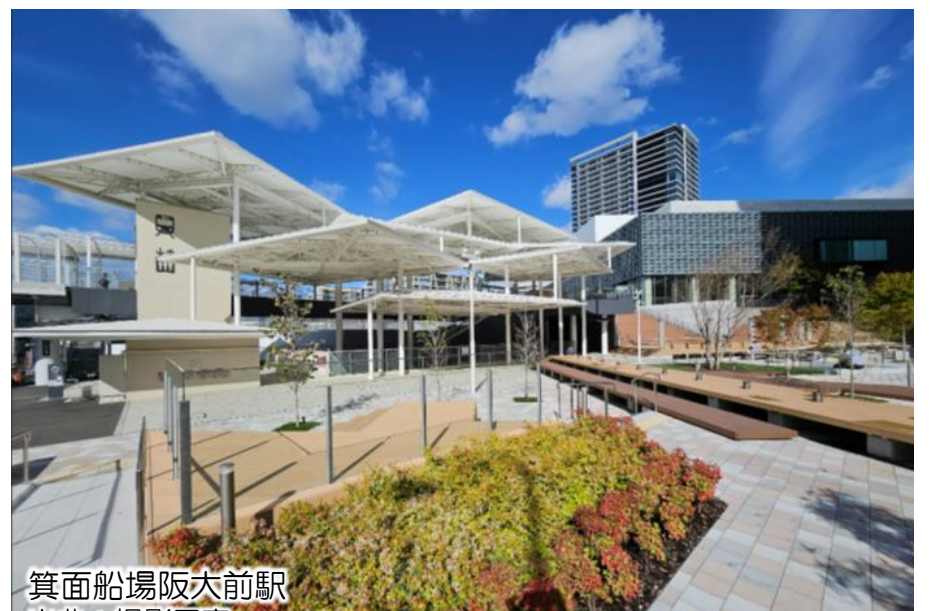
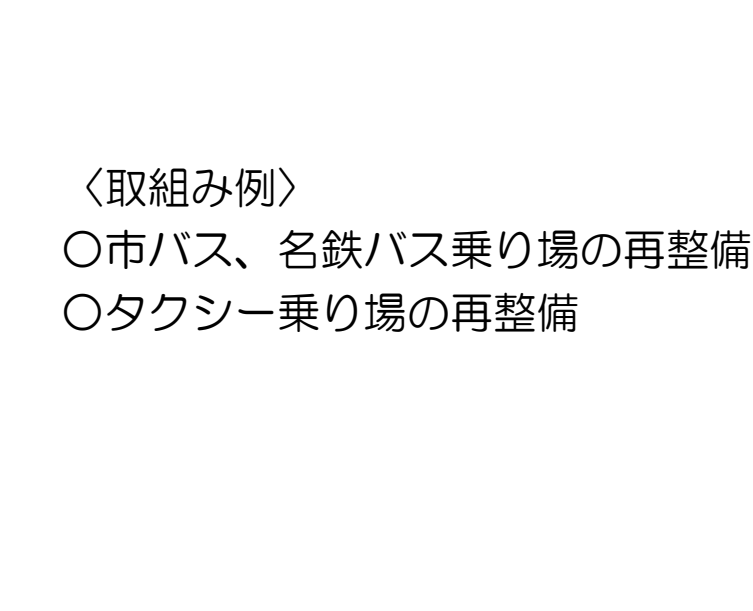
短・中期アクションプランの成果を検証し、より総合的な取組みを策定・実施します。

方針1 安全安心で歩行者にやさしい道路づくりを目指します



- 〈取組み例〉
- バリアフリー化の推進（歩道の段差の解消）
 - 十分な歩行スペースの確保

方針2 わかりやすい公共交通乗り場の形成を目指します



- 〈取組み例〉
- 市バス、名鉄バス乗り場の再整備
 - タクシー乗り場の再整備

方針3 需要に応じた適切な広さのバス利用者待合いスペースの確保を目指します



- 〈取組み例〉
- 利用者が多いバス停付近で、歩行者の通行に影響を及ぼさないよう適切な待合いスペースを確保

適切な広さの待合いスペースのイメージ